

# 小学校・幼稚園教員養成のためのピアノ指導法(3)

## ー学生によく見られる表現の誤りー

竹内 アンナ

Some Guidelines for Piano Teachers in Elementary and  
Kindergarten Education Courses: Inappropriate Expressions often  
seen in Students' Performances

Anna TAKEUCHI

学生が楽譜を正確に読み取る力に欠ける問題点について、本学紀要第30号で「リズム」「音程」「休符」の三つを取り上げ考察したが、今回さらに「連動」と「ブレス」について、学生の誤った楽譜の読み取り箇所を譜例に示しながら、その問題点を取り上げることとする。

楽譜は前回と同じく授業で使用している『幼児の音楽教育』（教育芸術社2000年）より、教材11曲を抜粋し、譜例をたどりながら学生の視点から生じる「連動」と「ブレス」の譜読みの誤りについて、その原因を探りながら正しい演奏表現方法について述べる。

### 1. はじめに

前回も述べたが、20年前と比べてここ10年で学生のピアノ学習経験をしている人数が数倍に増えたことは確かであるが、残念なことにその人数の増加と学習の理解力の向上とが必ずしも比例するものではないのである。それは学生の演奏からも明らかにわかる。以前に比べてピアノ演奏技術や技巧のレベルは全般に上がったといえる。しかし、歌であれピアノであれ、演奏の正確性に欠けるという最も基本的な重要な問題に関しては、見逃すことのできない誤りがある。学生の学習経験年数が長いとか、難易度の高い曲を演奏できるとしても、基本が崩れてしまう演奏では、やがて彼らが教育現場において子どもたちに指導する立場になった時、支障をきたしかねない。指導者は第一に正確な譜読みを行うことが大切であり、次に何よりも子どもたちの前できれいな音楽表現をすることが求められるのである。

学生が演奏の基本をしっかりと身に付け、また理解できる知識を学び得てくれることを切望する。



まず5小節目の2番の歌詞「そうっと」が、右手ピアノ伴奏の付点8分音符Eと16分音符Eのリズムを2回繰り返すところで指の動きに歌が連動して、「そおおっと」と“お”を2回繰り返して歌ってしまう。このような場合は右手ピアノを下段伴奏譜の1拍目を4分音符Eひとつにして弾くと滑らかに歌うことができる。次に、6小節目は5番の歌詞「かぶって」が、右手ピアノ伴奏2拍目の付点8分音符Hのところで指の動きに歌が連動して「かぶうって」と歌ってしまう。ここは1拍目16分音符Hと2拍目付点8分音符Hをタイで結ぶ奏法を取り入れることで滑らかに歌うことが可能である。また、7小節目は1番の歌詞「ふってき」が、1拍目の16分音符Hのところで指の動きに連動して「ふうてきて」と歌ってしまう。この場合も1拍目を4分音符Hひとつにして弾くと滑らかに歌うことができる。その他は歌詞を拍ごとに旋律音に合わせるできるので連動の問題はなく、2番から5番まで歌うことができる。

譜例2. 「とんぼのめがね」

1 とんぼのめがねはみずいろめがねあーおいおそらを  
 2 とんぼのめがねはびかびかめがねおてんとさーまを  
 3 とんぼのめがねはあかいめがねゆうやけぐーもを

とんだからとんだからー  
 みてたからとんだからー  
 とんだからとんだからー

譜例2. 5小節目の1番の歌詞「あーおい」が、1拍目8分音符C2つのところで指の動きに歌が連動して「ああおい」と歌ってしまう。また6小節目は2番の歌詞「さーまを」が、16分音符Aのところで指の動きに歌が連動して「さあまを」と歌ってしまう。同小節3番の歌詞「ぐーもを」においても8分音符Gから8分音符Aに1度上がるところで指の動きに歌が連動して「ぐうもを」と歌ってしまう。この3箇所は、すべて1拍目の8分音符2つのところ4分音符1つに置き換えることにより滑らかに歌うことができる。

## 譜例3. 「どんぐりころころ」

Chords: C, F, C, C, F, C, G7, C, F

Lyrics (System 1):  
 どんぐりころころ ドンブリコ おいけにはまって  
 どんぐりころころ よろこんで しばらくいっしょに

Chords: C, G7, C, F, C, G7, C, Dm, C, Dm, G, C

Lyrics (System 2):  
 さあた いへん どじょうがでてきて こん にちは ぼっちゃんいっしょに あそびましょう  
 あそんだが やっぱりおやまが こいしいと ないてはどじょうを こまらせた

**譜例3.** 5小節目2拍目の1番の歌詞「はまって」では、16分音符Aの4連打の指の動きに歌が連動して「はまあて」と歌ってしまう。次に、7小節目1拍目の2番の歌詞「やっぱり」が、16分音符Gの2連打の指の動きに歌が連動して「やあぱり」と歌ってしまう。また、9小節目2拍目の1番の歌詞「いっしょに」が、やはり16分音符Aの2連打の指の動きに連動して「いいしょに」と歌ってしまう。ここに取り上げた3箇所共通する問題点は、指の動きによる歌詞の無駄な言葉の繰り返しが16分音符の連打で起きるということである。すべてを16分音符ふたつのタイにして8分音符ひとつと捉えると滑らかに歌うことができる。

譜例4.「思い出のアルバム」.

**先生 (先生)**

1	い	つ	の	こ	と	だ	か
2	は	る	の	こ	と	で	す
3	な	つ	の	こ	と	で	す
4	あ	き	の	こ	と	で	す
5	ふ	ゆ	の	こ	と	で	す
6	ふ	ゆ	の	こ	と	で	す
7	い	ち	ね	ん	じゅ	う	を

おもいだして ごらん

**子供たち (子供たち)**

う	れ	し	か	た	こ	と	お	も	ろ	か	た	こ	と
ば	か	し	か	お	に	で	ほ	し	よ	く	あ	そ	ん
む	ぎ	ぼ	ら	ぼ	う	の	や	な	な	は	だ	ん	ら
も	ん	ぐ	り	か	ま	の	き	み	き	リ	グ	ラ	ス
さ	み	の	き	は	ざ	て	い	の	た	か	ス	マ	ヘ
も	い	お	は	な	っ	ひ	あ	き	い	に	い	い	で

譜例4. 7小節目の歌詞「あったで」では、4分音符Gから8分音符Gに移るときの指の動きに連動して「あーあたで」と歌ってしまう。この場合、8分音符Gを弾かず4分音符Gを付点4分音符ひとつに置き換えると歌の連動作用が起こらず、滑らかに歌うことができる。また、11小節目6番の歌詞「あったかい」では、8分音符Fの3連打の指の動きに連動して「ああたかい」と歌ってしまう。ここも1拍目と2拍目の8分音符Fを4分音符ひとつに置き換えることにより「あったかい」と歌うことができる。

上に取り上げた4曲の問題となる箇所をまとめると次のようなことがわかる。

歌詞の中で、「あーめが」「あーおい」「さーまを」など言葉が母音でのびるとき、或いは「かぶって」「ふって」「すくって」などの促音の前から後に移るとき、右手ピアノ伴奏に音の移動が起きると、その瞬間ピアノの指の動きに歌が連動して母音をさらに発声してしまう。これはどちらもピアノによる指の動きが生じなければ起きない問題であることから、先の説明で触れたように音符の置き換えをすることによって滑らかな歌唱表現を得ることができる。

### 3. ブレス

#### 譜例5. 「春がきた」

1 はるがきた はるがきた  
2 はながさく はながさく

どこにきた やまにきた さとにきた のにもきた  
どこにさく やまにさく さとにさく のにもさく

譜例5. 6小節上目最後の「た」の後にブレスの記号があるにもかかわらず、7小節目の歌詞「どこにきた」の「に」の後でブレスをする学生が多い。ここでブレスをしてしまう一番の原因は、先ずピアノ伴奏6小節目、4拍目の4分音符Cが時間に余裕をもってブレスをできないことから次の小節まで歌い続けてしまうのである。そして、次の7小節目の歌詞「に」が付点4分音符Eで前の小節4分音符Cより長いことから、ここで初めて歌に余裕を持って、ブレスに取りかかれるからと思われる。また、下段11・12小節目の歌詞「のにもきた」のところでも、「も」の後で多くの学生はブレスをしている。10小節目の後にブレスの記号があるにも拘らずブレスを無視して歌い続けてしまうのは、やはり音符の長さに影響されるからであろう。どちらも記されたところでブレスをするには、正確なテンポで歌おうとするのではなく、わずかに時間的な“間”を小節と小節の間に維持してブレスをすることにより、余裕をもって歌うことができる。

譜例6. 「山の音楽家」

♩ = 92

1~3 わ た し ゃ お ん が く か 1 や ま ま の こ り す り 2 や ま の こ た と ぬ き 3 や ま の こ た と ぬ き

う す ず に に バ フ イ ル オ リ ン ひ い て み ま し ェ キ ュ キ ュ ず ず に に た た い こ を た た い て み ま し ェ ビ コ

譜例6. 8小節目の歌詞「がくかや」では、歌詞「が」の後でブレスをしてしまうが、ここは文節から考えても「おんがくか」の中をブレスで切ってしまうのは不自然でおかしい。ここは当然歌詞「か」の後でするべきである。また、12小節目の歌詞「イオリンひ」では、歌詞「イ」の後でブレスをしてしまうが、ここも「リン」の後でするべきである。このふたつのブレスの誤りは、その歌詞の音符が付点8分音符Aと、この曲の中で最も長い音であることから、歌い手の気持ちがこので落ち着いてしまうか、或いは音符が長いのでブレスがし易いと感じるからである。しかし文節の途中で切ることは、歌詞の意味を損ねることから行ってはならない。

譜例7. 「おかえりのうた」

1 きょ う も た の し く す み ま し た な か よ し こ よ し で 2 お り が み つ み き も か た づ け て お か え り お し た く

か え り ま し ェ う せ ん せ い さ よ な ら ま た ま た あ し た で き ま し た み な さ ん



譜例7. 8小節目の歌詞「さよなら」では、歌詞「さ」の後でブレスをしてしまう。歌詞「さ」に付く音Aが付点4分音符でこの曲の中で最も長い音符であることから、ブレスがし易いのである。しかし「さ」も「よなら」もそれだけでは言葉に意味を持たないことから「さよなら」と一息で歌うことが大切である。

譜例8. 「線路は続くよどこまでも」



譜例8. 1・2小節目、共に3拍目の付点4分音符の歌詞「ラン」のあとでブレスをしてしまう。ここは、歯切れ良く前進する気持ちで1小節目から4小節目の終わりまでを一息で歌ってもらいたい。但し、年齢の低い子どもが歌うのであれば、途中でブレスを入れて無理なく歌えるように配慮をする必要がある。

譜例9. 「クラリネットをこわしちゃった」



**譜例9.** 9小節目と15小節目、共に1拍目の付点2分音符の歌詞「が」のあとでブレスをしてしまう。その前の小節5・6・7・8と、11・12・13・14の4小節をどちらもブレスなしで歌うことから、そのあとの付点2分音符の音の長いところまでくると、若干の息苦しさもあり途端にブレスをしたくなるのである。しかしこの曲は2分の2拍子でテンポも「速く」という指示があることから、全体に明るく躍動感をもった雰囲気ので6小節を一息に歌うことが大切である。

**譜例10.** 「ゆきのペンキ屋さん」

1 ゆき の ペンキ屋さんは おそ から ちらちら  
2 ゆき の ペンキ屋さんは おおぜい で ちらちら

おやねも かきねも ごもんも みんな  
おやねも のはらも はたけも みんな

まっしろく まっしろく そめに くる  
まっしろく まっしろく そめに くる

**譜例10.** 9小節目と10小節目、共に歌詞が「まっしろく」のところで、「し」の前でブレスをしてしまう。全体を通して「まっしろく」のフォルテで気分を高め、歯切れよく発音して、「まっしろく」を明るく一息で歌うことである。

#### 4. まとめ

連動については4曲を取り上げたが、この4曲に共通した問題点の派生原因は、ひとつはピアノ伴奏部分の指の動きに歌詞が連動して、不必要に反応して起こる言葉の繰り返しである。また、「いっしょ」「あった」など促音で発声が一瞬消えるように聞こえるところでは、「いいしょ」「ああた」と母音を繰り返し発音してしまうことである。この二つの問題点を解決する方法として考えられることは、ピアノ伴奏につられて

繰り返し歌ってしまうところのピアノの音を省略するか、或いは音符を置き換えることである。即ち、鍵盤の指の打ち直しを無くすことで新たな言葉の繰り返しを防ぐことができるのである。

ブレスについては6曲を取り上げ考察してきたが、この6曲に派生した問題点のすべてについて、ある共通した原因のあることがわかった。それは言葉の意味や文節を無視してブレスを行ってしまうところの歌詞に付いている音符がすべて付点音符であったことである。ではなぜブレスが付点音符で起こるのであろうか？原因として考えられることは、どの付点音符も楽曲の中で使われている音符の中では一番長い音符であることから、長いとブレスがしやすいのである。音符が長いと言っても2分音符などではなく、付点8分音符や付点4分音符などが圧倒的に多い。要するに曲全体を歌う中で使われている長い音符が、ブレスのより所になってしまうことのようなのである。また、付点音符のあとにくる音符は、付点音符より短い半分以下の長さであることから、細かい付点のリズムを正確に捉えながらブレスせずに歌うことが難しくなることも考えられる。したがって、適切な箇所ではブレスを行うには、歌詞の内容をよく理解し、音符の長さに左右されることなく行えることが大切である。

以上のことから、歌でもピアノでも演奏の第一歩は楽譜に忠実であること、決して大雑把な楽譜の見方をせず、1小節ずつ丁寧に楽譜を読んで理解することが大切である。そこから歌やピアノのきれいな音楽が生まれることは間違いないのである。

#### 引用文献（楽譜）

『幼児の音楽教育』教育芸術社 2000年

#### 参考文献

『幼児の音楽教育』教育芸術社 2000年